「一人一人の共生社会」につながる交流及び共同学習
～共生社会でよりよく豊かに生きる力を育む教育課程づくり～

第2 回　全校研究会

平成 29 年 9 月 15 日
研究推進会議

本校では、昨年度に引き続き、「文部科学省平成 29 年度特別支援教育に関する実践研究充実事業」の指定を受け、多様な交流及び共同学習を中心に、一人一人の共生社会を追究し、生きる力の獲得をめざした授業改善研究・教育課程研究を進めています。今年度は、教育課程上に配列された各教科等と交流及び共同学習、行事との関係が一望できるように「教育課程マネジメント年間指導計画」を各クラスで作成しています。(「教育課程マネジメント年間指導計画」については、別途本校ホームページ（http://www.kyoto-be.ne.jp/yawata-s/mt/research/2017/11/post-10.html）をご覧ください。)

8 月 23 日（水）には、第 2 回全校研究会を行いました。各学部の教育課程マネジメント年間指導計画に基づく授業改善の取組と、多様な交流及び共同学習の実践展開の報告を行い、学習内容の年間計画（横のつながり）と同時期に取り組む他の教育活動とのつながり（縦のつながり）の重要性を確認しました。また、研修の部では、辻喜朗指導主事（京都府教育庁指導部特別支援教育課）に「特別支援学校学習指導要領改定のポイントとカリキュラムマネジメント」をテーマにお話しいただきました。

授業改善研究の概要

【小学部】『子どもも大人も楽しい！遊びの指導』～遊びの中でついた力は生きる力～

「遊び込む」ことが心身の発達や大人や友達との関わり等を促し、子どもの豊かな育ちにつながる。魅力的な遊びの発展を図る授業改善、そして高校生や居住地校との交流及び共同学習の取組において、遊びの中で育った力を発揮する子どもたちの姿をとおして「縦」と「横」の学びのつながりの重要性への理解を深めた。

辻指導主事の助言

子どもの変化を捉え授業改善に取り組めている。教員同士で実践の共有ができていることは良い。単元目標はこの単元だからこそねらえる目標になっているのかは検討が必要である。

【中学部】生活単元学習を中心にした教育課程マネジメント年間指導計画～つながりのある学習展開～

学年や生活年齢を意識した学習集団の中、一人一人に応じたねらいと手立てを設定することの大切さを実感した。また、単元終了後に、教育課程マネジメント年間指導計画を再考することにより、同時期に行う学習のつながりと年間をとおしてつけたい力を再認識することができた。

辻指導主事の助言

幅広い実態の学習集団では、個々のアセスメントがより重要である。一人一人の生徒が一つの活動をどれくらい理解して取り組むことができているか、なぜその活動を行うことができているかの課題分析も必要である。

【高等部】豊かに生きる力に迫る授業づくり～つながりのある教育活動～

「豊かに生きる力」とはどのような力か、どのような学習で身に付けていくのかを学部内で意見を出し合い、生徒の学びを深めている。日々の教育活動の「縦」も「横」も含めた全てのつながりが好循環となり、生徒一人一人の学びや力を育んでいるということを学部内で共通確認することができた。

辻指導主事の助言

「豊かに生きる力」＝社会参加につながるキーワードであり、そのことがわかって授業づくりを進めることが大切である。単元内でできたことが継続して続けられているかを確認することが必要である。

研修の部「特別支援学校学習指導要領改定のポイントとカリキュラムマネジメント」

学習指導要領改定の基本的な方向性について、改訂の６つのポイントに沿って、わかりやすく説明していただきました。また、ワーク形式で実際に自分達でも考えながら学びました。

①社会に開かれた教育課程　②小学校学習指導要領における特別支援教育の充実
③段階別の目標　④キャリア教育の充実　⑤評価（学びの連続性）⑥評価（観点別学習状況の評価）

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標をもち、教育課程を介してその目標を学校と社会とが共有していくことが大切である。

【ポイント①】
自立活動、各教科のねらいをそれぞれの授業にどれだけ盛り込んでいるか。また各教科のねらいを明確化しているか。

【ポイント②】
「生きる力」を資質・能力として具体化し、「何ができるようになるか」を明確にすることで、三観点の評価を共有できているか。

【ポイント③】
生涯学習をとおした生きがいや、地域とのつながり等地域社会とつながり続けることを意識できているか。

参加者の感想

教育課程マネジメント年間指導計画を作成することで、一つの授業の縦のつながり、横のつながりを再度認識しながら授業づくりをすることができた。どのような「基準」で評価するかという視点ももって、今後も授業づくりや授業改善に取り組みたい。

縦のつながり、横のつながりを考えて年間指導計画を作ることが、共生社会につながる教育活動を展開できるという研究の成果を感じている。実態の違う集団での授業では、つながりだけに注目せず、どの子どもも授業に参加できているか、わかって動ける主体的な参加となっているか等の授業づくりのポイントも忘れてはならない。

中高と生活年齢が上がるにつれ、授業で取り組んだことが実際の生活とどれだけ連動しているかがより大きなポイントになると感じた。目標設定、「なぜこの活動をするのか」という活動設定、手立て、評価方法等を考えることができた。

小、中、高等部いずれも授業改善の過程や、それによる子ども達の変化が捉えやすい発表だった。共通点は、子どもの実態や課題をふまえること、集団的・多面的に検討や見直しを重ねてきたことであった。集団的な関わりの高まりや広がりの前提として、個々にきちんと視点を当てた日々の丁寧な取組があってこそ、発展的につながっていることを再認識した。

何のためにその活動をするのか、どのようにそれがつながっていくのかを子ども自身が理解した上で学習に取り組むことが大切であり、そのためには導入部分にも重点を置く必要があると思った。子ども自身も学習目標を意識して取り組むことで、学習の達成感を感じやすく、自己肯定感につながると感じた。

各教科等を合わせた指導はあくまで指導形態であり、改めて各教科の目標から再検討する必要があると感じた。特に自立活動においては、根拠があるアセスメントから設定される指導課題や目標を、授業の中でどう指導していくかを明確にすることが大切だと感じた。

８月の全校研究会での学びを後期の授業改善研究につなげ、１月 26 日の研究報告会で、２年間の研究のまとめを報告したいと考えています。